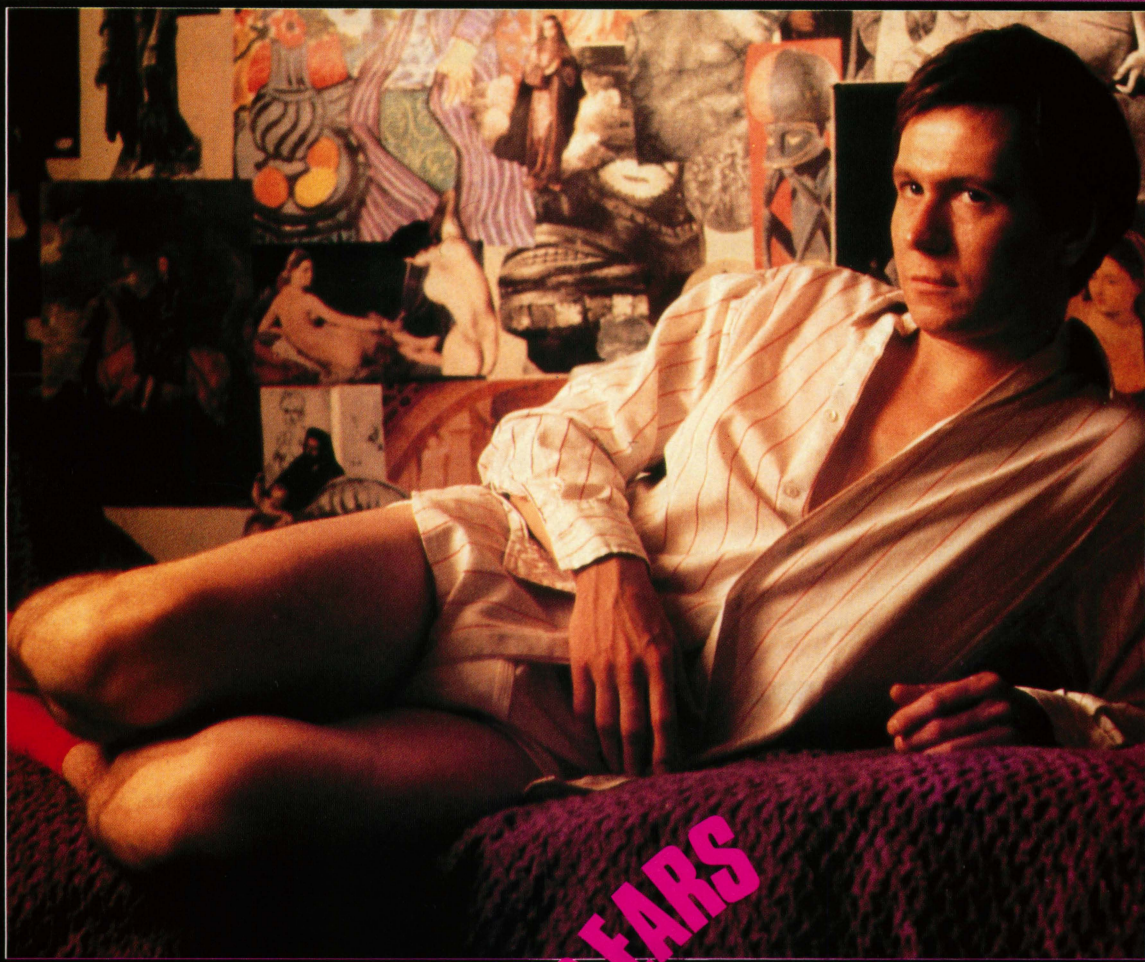




1987年カンヌ映画祭最優秀芸術貢献賞

スキヤンダル・センセーション!

幻のビートルズ映画を書いた男、ジョー・オートン



# プリック・アップ

PRICK UP YOUR EARS

ケイリー・オールドマン GARY OLDMAN アルフレッド・モリーナ ALFRED MOLINA

ヴァネッサ・レッドグレイヴ VANESSA REDGRAVE

監督: スティーヴン・フリーアーズ Director: STEPHEN FREARS

原作: ジョン・ラー Based on the biography by: JOHN LAHR

脚色: アラン・ベネット Screenplay: ALAN BENNETT

撮影: オリヴァー・ステイプルトン Photography: OLIVER STAPLETON

編集: ミック・オースリー Editor: MICK AUDSLEY

音楽: スタンリー・マイヤーズ Music: STANLEY MYERS

美術: ヒューゴ・ルクツィク・ウィホウスキ Production Designer: HUGO LUCZYK-WYHOWSKI

製作: アンドリュー・ブラウン Producer: ANDREW BROWN

Civilhand + Zenith Productions 製作 1987年 カラー イギリス映画

●ベストロン映画配給



〈男達の純愛ドラマ『プリック・アップ』〉

『マイ・ビューティフル・ランドレット』が全世界でヒットし、  
日本でも話題を呼んだスティーヴン・フリアーズの最新作がいよいよ上陸。

’60年代のロンドンで、愛し合い、そして死んでいった一組のカップルがいた。《オスカー・ワイルドの後継者》と呼ばれた男と彼を支え続けた男のカップルが……。

『プリック・アップ』とは「ナニをおっ立てろ」というスラング。といっても話は別にポルノではない。これは’51年から16年間にわたって愛し合った実在のホモセクシュアル達の純愛ドラマである。ホモといえば、前作『マイ・ビューティフル……』も同じテーマで描いていたが、監督曰く「イギリス文化を支える要素としてホモが非常に重要な位置を占めている現在、イギリス映画を撮る場合にそのテーマを避けることはできない」

そういった監督の意向から、劇作家ジョー・オートンと彼の愛人ケネス・ハリウェルの物語は、美しい映像となって甦るようになった。

■〈ビートルズの幻の映画を書いた男〉

オートンは「スローン氏の歓待」や「薔薇と棺桶」などの名作を世に送り出しその作品は、現在でも世界各国で上演されている。

彼は死の間際、ザ・ビートルズのマネージャーから、「ヘルプ」に続くザ・ビートルズ三本目の主演映画の脚本執筆を依頼され「アップ・アゲインスト・イット」なる作品を書き上げていた。が、オートンの死によってこの作品はお蔵入りになっていたのだ。

しかし、今年ニューヨークでこのシナリオが発掘され、舞台でミュージカル化が決定！音楽は、あのトッド・ラングレンが担当。オフ・ブロードウェイで、来年初頭の公開予定とか。

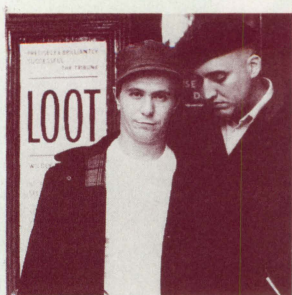
★ ★ ★

監督のスティーヴン・フリアーズは、’41年イギリスのレスターで生まれた。彼はケンブリッジ大学で法律を学んだ後、’66年に映画界に入ったが、その後はおもにTV界で活躍していた。TVムービー用に撮った『マイ・ビューティフル……』が認められ、映画界へ復帰することになり現在は『Sammy and Rosie get laid』を撮影中。

オートン役のゲイリー・オールドマンは、『シド・アンド・ナン

スタッフ

監督……………スティーヴン・フリアーズ  
原作……………ジョン・ラー  
脚色……………アラン・ベネット  
撮影……………オリヴァー・ステイブルトン  
編集……………ミック・オーズリー  
音楽……………スタンリー・マイアーズ  
美術……………ヒューゴ・ルクツィク・ウィホウスキ  
製作……………アンドリュウ・ブラウン



キャスト

ジョー・オートン……………ゲイリー・オールドマン  
ケネス・ハリウェル……………アルフレッド・モリーナ  
ベギー・ラムゼイ……………ヴァネッサ・レッドグレイヴ  
ジョン・ラー……………ワラス・ショーン

プリック・アップ  
PRICK UP YOUR EARS

シー」のシド役で名を馳せたのは記憶に新しいところである。今回フリアーズが彼を起用した理由として演技力はもちろんのこと、オールドマンとオートンの姿形が似通っていたこともあげている。愛人のハリウェル役には、ロイヤル・シェークスピア劇団出身のアルフレッド・モリーナ。彼は’81年スピルバーグの『レイダース/失われたアーク《聖櫃》』で映画デビュー。その後は『レディ・ホーク』『リヴァプールから手紙』などに出演し、今回は髪の毛をすべて剃り落とすなどして、ハリウェルの微妙な心理を見事に演じ切っている。

■ストーリー

’67年8月。ロンドンの北にある小さなフラットでひとりの男が撲殺死体で、そしてもうひとりが睡眠薬自殺の果てに死んでいるのが見つかった。殺されたのは人気劇作家ジョー・オートン。「オスカー・ワイルドの後継者」として演劇界で注目を集めていた彼が、愛人のケネス・ハリウェルと無理心中したこの事件は、世界中の演劇関係者達にショックを与えた。何故、彼は殺されたのか、ケネスとジョーの関係はいかなるものだったのか？

彼らはロンドンの演劇学校で知り合い、同棲生活を始め、やがて共同で戯曲を書くようになった。

ジョーは、ケネスとの生活を続けながら他の男たちとも浮気をしていた。それも駅や街角で男を拾い、ゲイの溜り場として名高い公衆便所につれ込んで関係を持つのがだった。ケネスは、そんなジョーの行動を止めることもできず、ただじっと彼の帰りを待っていた。

数年後ケネスは書くことをあきらめ、ジョーはひとりで劇作家を目指していたが、共同生活はつづいていた。そんな彼らが初めて別れて暮らすことになったのは’62年のこと。図書館で借りてきた数多くの本に落書きをしたり、写真を切り取ったりしていたために捕まり、それぞれ半年間の刑を宣告されたのだった。獄中でジョーは、ひとりで劇を書き上げた。それは一幕もので、ケネスとの生活を描いたものだった。ジョーはこの一作で、新進劇作家としての注目を浴び栄光の階段を昇り始めたが、ケネスにとってはつらい日々の始まりであった……。

Civilhand+Zenith Productions 製作/イギリス映画/1987年/1時間50分/ヴィスタ・サイズ/イーストマン・カラー/6巻、3.224m

10月中旬より独占ロードショー！

特別鑑賞券1,200円発売中  
(当日一般1,500円・学生1,300円の処)

特別鑑賞券は都内各プレイガイド、チケット・セン、チケットぴあ、セゾン系各劇場他でお求め下さい。グループ鑑賞のお申し込みは梅メジャー☎03(541)2508まで。

銀座テアトル西友

銀座1丁目(旧テアトル東京跡) ☎03(535)6000

連日 12:15 2:30 4:45 7:00 金・土追加9:15

